

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員が地域密着型サービスの意義を理解している。また理念を理解し、念頭に置いて職務に就いている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念をもとにしてプランの作成や日々の介護を行っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	パンフレットに記載している為、地域の方や見学に来られた家族にも理解いただけている。また、入所時にも説明し、納得していただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ホーム周辺での散歩や草刈りでは近隣の方とよく顔をあわすので挨拶を心がけている。「公園に花が咲いたよ」「展望台の景色はきれいよ」等、近所の情報を教えてくださる方も多く、気さくにお付き合いしていただいている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内のお祭りや運動会には参加している。職員付き添いのもと本人の自治会の行事に出席することで、なじみの方との会話を楽しまれている。また、今夏は地元小学校の阿波踊り連がボランティアで来てくださり、利用者たちと交流していただいた。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業者は職員を積極的に研修・学習会に参加させ、学んだ事を地域福祉に活かす取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果をもとに、運営者・管理者・職員で話し合いを繰り返し改善への努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月一回、利用者家族代表や地域住民等外部の方を招いて意見を伺い、改善すべき問題は改めるよう努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と交換を密にし、介護における情報を得ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の一部は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加し、学習内容を他職員に申し送っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法についての研修に参加している。また日々の業務の中で認知症ケアの啓発に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し、不安点や疑問点にお答えしている。またやむを得ず退所される場合は、解約時の条件・対応なども事前に説明し、納得していただいてから入所決定をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は毎日のケアを通して、利用者から信頼してもらえる関係性を作るようにしている。ホーム前に意見箱を設置している。また県庁などの外部機関への連絡方法も契約書に記載し説明している。いただいたご意見は真摯に受け止め、改善する努力をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月月末に、日誌・あいの郷便りなどを送付している。出金のある月には金銭出納簿と領収書のコピーもいれ、次回面会時に出納帳に署名をいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見箱の設置・県長寿社会課などの外部への意見の申し立て方法を説明し、文書化している。問題点があればあいの郷会議を開き議論し改善への取り組みをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のあいの郷会議で運営者と管理者・職員が直接話し合う場を設けている。また管理者は日々の介護をとおして、現場の声を聞き、運営者に連絡・報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入浴日・受診日・行事活動などに対応できるよう、出勤人員を調整し臨機応変に対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	両ユニット間の異動はあるものの職員は常に行き来しているので利用者への心理的な負担は少ないと思われる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には研修期間を設け、理念や利用者個々の対応を理解したうえで業務に入るよう指導している。また、年間研修計画をたてて講義やセミナーに参加しスキルアップに努めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや市町村・社協等と交流し、実情を伝え意見をもらっている。常に情報を交換し、サービスの質を向上させる努力をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員同士で悩みを相談しあい、ストレスの軽減に努めている。運営者はよい職場環境が築けるよう現場の声に柔軟に対応するよう心がけている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員のスキルアップの為、実績に応じた研修を受講する機会を与えている。資格取得後は手当てを支給して働く喜びを引き出している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学に来られた際や電話での対応の際には家族はもちろん本人とも直接お話しさせてもらい、不安に感じている事や希望などを聞かせてもらい、安心してもらえるように対応するようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が現在困っている点・不安な点・要望などを、話しやすい雰囲気のもと一つ一つ丁寧に説明している。その上で契約書等を用いて事例をふまえながらできることとできないこととお話し、納得していただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族より十分に聞き取りをして、現状でできる一番よい方法を模索するように心がけている。必要なら居宅や病院・社協等の関連機関への対応も柔軟にしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接の際他利用者とりビングで同じ時間を過ごしていただいたり、可能なら入居前に併設のデイサービスを利用していただいたりして施設の雰囲気を感してもらってから入所決定していただいている。またしばらくは外出・外泊を含め、家族にまめにホームに来ていただけるよう依頼している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホーム前の畑仕事を手伝ってもらっている。また料理教室ではむかしながらの郷土料理を指導していただいている。職員は私事でも色々アドバイスしてもらうことも多く、利用者としてだけでなく人生の先輩として尊敬して接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には話しやすい雰囲気を作りながら近況を伝えている。不安な点や悩みなどに傾聴し家族の思いを受け入れるようにしている。遠方にある家族にはまめに電話で連絡をとるようにして、共に利用者を支えていく関係を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族双方の思いを受け止め、お互いの状況を理解し伝達していただけるように心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの土地のドライブ・散歩等を通して、大切な人との関係性を継続していく為の援助をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	近隣の利用者が多数なので共通の話題が多く、よい雰囲気が作られている。部屋にこもりがちな利用者にはまめに声かけし、レクや体操等にお誘いして孤立しないように注意している。参加の強制はしていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院に入院した方のお見舞いをしている。家族からの相談があれば、その時でできる支援の提案をして、再度利用を含めて、不安な気持ちを受け入れるようにケアしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との信頼関係を作り、本人の希望・要望を伝えてもらえるように接している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人・家族・担当ケアマネからの聞き取りと病院からの申し送りなどを通して、生活歴等の把握に努めている。また日々の関わりあいの中で会話を通して聞く機会も多い。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の状態を観察し、記録している。重要な点は口頭または日誌で申し送りし、全職員が利用者の状態の変化を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の要望を伺い、現在の状態を考慮しながら介護計画をたてている。担当者が3か月に一度見直し、カンファレンス会議で議論している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当制を新たに採用した。利用者一人に職員一人がつき、本人に深く関わられるようにした。また、ケアプラン用紙を見直ししてケア内容を具体的に表記できるようにした。カンファレンス用紙・アセスメント表・24時間チェックシートも新たに作成し、チームで話し合っよりよい介護計画を作成できるように改善した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルがあり、毎日の様子を記録している。またホーム日誌に状態の変化・ケアをとおしての気付き・改善点を記入し、担当制を用いてチーム全体で議論し介護計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方・病院・市町村等の関係施設と連携し、多方面からの介護支援を提供している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の訪問やボランティアの受け入れを歓迎している。日頃から関係機関と連携して情報交換を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設のデイサービスの生花教室や音楽療法・体操指導の時間にホーム利用者も参加している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	隔月、運営推進会議を開催している。地域包括支援センター職員や利用者家族代表・居宅ケアマネに参加していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をお伺いし、往診・受診を依頼している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎日のケアの中での変化・気付きをかかりつけ医に相談して対応している。一部利用者は認知症専門医や精神科医を受診し、指示を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置している。三野田中病院による医療連携もとれており、訪問看護の看護師にも助言をもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	母体施設との連携があり情報交換がとれているので、緊急の入院にも即対応できる用意がある。また担当ケアマネや病院関係者との連絡を密にして早期退院にむけての支援をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、重要契約書をもとに、重度化した場合や終末期を迎えたときの対応を説明し、納得していただいている。本人・家族の希望を大切に、医師も交えて話し合いをして方針を決定している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を大切に、チームで協力して、できうる支援をしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	話し合いの場を多くもち、不安な気持ちを緩和できるよう対応している。移転の場合、次施設には医療事項・ケア情報・毎日の生活の様子等を記載した情報提供用紙を送付している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけはさりげなくするように心がけている。おむつ交換は個室で行い、トイレ誘導もゆったり行っている。個人記録は個人情報保護の面で、できるだけ他者に目につかない場面で記録するようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	レクや行事は内容を説明した上で本人の意思で参加の有無を決定している。毎日の生活の中でもできること・できないことを考慮しながら、本人の思いにそぐえるような生活支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを大切に考え、家庭的な雰囲気のもと、ゆったりとしたペースで生活していただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみの服を面会の折に持参してもらい、行きつけの美容院に行くなど、家族の協力を得ながら本人の希望される身だしなみができるように援助している。	○ 一部利用者は近隣図書館で本を借りたり、切花をオアシスに生けたりと、各々の趣味の時間を大切にしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前後にはお手拭きをたたんでもらったりテーブルを拭いてもらったりしている。今日の献立をあらかじめ伝え、食材に関する会話を楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・たばこを好まれる方は現在入所していない。飲み物やおやつは10時・3時のお茶の時間に提供したり、面会の方の差し入れを間食用に利用したりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンをつかんでいる。日中はできるだけおむつを外して生活できるように適宜トイレ誘導を行っている。失敗した利用者にはさりげなく声かけして更衣の援助をし、本人の自尊心を傷つけないよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて一日に1ユニットずつ入浴介助している。便失禁した折や受診等で予定日に入浴できなかった利用者に対しては、別日に臨機応変に入浴してもらっている。また季節感を味わっていただく為、暦にあわせて菖蒲湯やゆず湯も楽しんでいただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間活動して夜よく眠れるように、日中はレクや体操に参加してもらえるよう声かけしている。高齢の利用者が多い為、個々の体調に合わせて昼寝や休憩もとっている。睡眠薬は受診の上、医師が必要と判断した利用者には服薬介助している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生け花やカラオケ・詠歌・バレー・つれあいのお墓参りなどに同行し、やりたいことをできる限り可能にできるよう援助している。毎日楽しく過ごしていただけるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に家族から預かり金として5千円お預かりし、買い物などの際に使用できるようにしている。個人的に携帯している金銭分については、持っていることで安心感を感じる利用者もいることから、自由に持参してもらっている。ただ、紛失などの事故の対応には責任を負いかねる旨契約書に記載し説明している。	○	利用者の一人は、現金をポケットや布団の中に隠されたことを忘れて盗られたと勘違いしていた。担当者によるカンファレンス会議により、簡単な鍵付きの金庫を用意することになった。金庫があることで被害妄想が少なくなった。問題点があれば即対応できる態勢をとるようにしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の体調にあわせて希望も伺いながら、ドライブ・散歩・買い物や地域の行事に参加している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年の節目の行事企画には特に力を入れている。お正月の初詣・彼岸のお墓参り・神社でのお参り・地域のお祭りなどにはできるだけ多くの利用者に参加できるように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している利用者は携帯で、それ以外の利用者はスタッフルームの電話を使用して連絡をとっている。また年賀状や暑中見舞いを家族宛にだす取り組みは毎年行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は毎日7時から21時まで受け付けている。たくさんの外部の方が来られるが、他の利用者が混乱しないよう配慮してお通ししている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が法の意味を理解している。家族には契約時に説明し、身体拘束同意書を交わしている。緊急時には身体拘束記録表に記録し、拘束・拘束解除を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。徘徊を早期に発見する為に玄関入り口にはセンサーが取り付けられ、チャイムが鳴るように対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通して声かけをまめにし、利用者の安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや縫い針などの危険物は、個々の介護度にあわせてお預かりするか否か決定している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、職員すべてが緊急時の対応を把握できている。病院・警察・消防などの外部機関との連携ができており、緊急時に備えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDを設置している。職員は消防署が開催しているAED訓練を順次受講している。緊急時には看護師・ケアマネ・介護福祉士を配置しているので的確に指導、指示している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、災害時の連絡網も確認済み。また非常時を想定して全職員の連絡方法・通勤距離・ルート等もあらかじめ確認している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化があればその都度家族に連絡・説明し、職員で話し合いの場をもち、対応を決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行って記録している。異変があれば看護師に連絡、応急処置、その後必要なら病院受診している。重要事項は口頭や日誌で全職員に確実に申し送るようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方たび説明書が添付されており、入所時から現在のものまでファイルして保存している。医師の指示通り服薬介助している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	管理栄養士と調理師を配置しており、予防と対応を行っている。一部利用者には水分チェック表を用い、水分量の管理をして排便を促している。下剤が必要な利用者には医師の指示のもと処方されている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの声かけをしている。職員は月一回地域包括支援センターの歯科衛生士による口腔ケア指導を受けている。不安・不明な点は相談し、直接技術指導を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量票・水分摂取表を活用し、毎日の状態を記録している。食事介助が必要な利用者には職員が付き添い、会話を楽しみながら介助している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している家族には契約の際に、緊急時の対応・搬送方法等について説明し、納得していただいている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・調理器具・布巾等は毎日殺菌処理している。食材は近隣スーパーより新鮮なものが届けられ、安全に加熱調理されている。また地域の農家の方より野菜を差し入れして下さる事も多く、季節を取り入れた安全な食材を使用することができている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
きんじょn				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や駐車場に、職員の手づくりによるかかしが飾られている。道路からも見える為、興味のある方が写真撮影をしたり地元保育所の散歩コースにもなっている。庭木は定期的に剪定し、季節の花を植え、利用者と一緒に手入れしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の切り花を生けたり、しめ飾り・クリスマスツリー等を飾り、季節感のある空間をつくっている。また、リハビリを兼ねた貼り絵のカレンダーを各ユニットで作成し、リビングの壁に掲示している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の目線に入らない場所で、食堂以外に、廊下側に椅子をふたつ設置している。仲の良い利用者との語らいの時間をもっといただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物品に囲まれた生活支援をする為、家具・部屋飾り・アルバムなどを、契約時に本人・家族に説明して入所時に持参していただいている。家具の転倒事故などがないよう安全面での配慮もしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室には換気扇が設置されている。本人と相談しながら空調や採光の調整を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りや声かけ介助で転倒等の事故防止に努めている。杖・歩行器・車椅子、個々の動線を考え、安全に移動・移乗できるよう家具を設置している。過介護にならないように「待つ」姿勢を大切にしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや各部屋には目印をつけている。また、特に入所間もない利用者には施設生活に馴染まれるまでは、職員一人を配置しさりげなく声かけし穏やかな気持ちで過ごせるよう対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム前に菜園があり、本人と職員が協力して野菜の栽培をしている。花壇には季節の草花が咲いており、散歩や日光浴時の楽しみとなっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様には、グループホームならではの家庭的な雰囲気のもと、毎日を楽しんで過ごしていただいています。職員も穏やかでゆったりした性格の者を採用しています。職員と利用者様という関係だけではなく、人生の先輩・後輩として接しています。本人様と家族様の思いを大切に、悩みに傾聴する時間を多く作るようにしています。「あいの郷でよかった」ある家族様のひと言です。この言葉をもう一度聞けるよう、精神的なケアに力をいれて取り組んでいます。